

第1回市民ワークショップの振り返り と加西病院の現状について

市民ワークショップ開催の趣旨

- ▶ 市立加西病院では、現在、有識者や市民の代表からなる加西市新病院建設基本計画策定委員会において、新病院の建設に関する基本的な計画を策定しています。
- ▶ 加西病院の現状や取り巻く環境、新病院の基本的な計画について、より多くの市民のみなさまにご理解いただくとともに、新病院が市民の皆さまに信頼される存在として存続していくために、利用者である市民の皆さまにも一緒に考えながらご意見・ご提言をいただくため。
- ▶ 市内各種団体や一般公募の市民の方約100名による、ワークショップを計画しました。
- ▶ 11月8日をスタートに、全5回シリーズで実施を予定しています。

第1回市民ワークショップの振り返り

▶ 第1回のテーマ 「加西病院を取り巻く環境や背景を考える」

▶ 基調講演

『国・県地域医療構想に向けた動き、大学派遣医師のトレンド』

- ・ 国の医療政策。医療費抑制・公立病院改革
(統合・再編、経営形態の見直し)
- ・ 県の方針 人口減に向けて選択と集中、病床機能の見直しと連携
- ・ 地域医療連携・地域包括ケアシステム
- ・ 大学医師の派遣トレンド (県の医師確保計画と医師の働き方改革)

第1回市民ワークショップの振り返り

▶ グループ討論と発表

・ 全参加者を11グループに分けて意見交換

- ・ 第1回はテーマが大きく広範囲であったため、最初は戸惑いもあった。
- ・ しかし、各グループともに活発な意見交換をして頂いた。

医師不足等の問題や地域包括ケアシステムの中で、病院間の連携や病院と介護の連携、その他地域における連携。

- ・ 普段、加西病院に対して思っていること。

・ 大会議室に戻って発表と講評

- ・ 代表3グループの発表

医療と介護の連携の必要性、加西病院への期待、情報共有の必要性

・ 講評

加西病院の現状について

東館

中央館・西館

6病棟 45床

5病棟 50床
地域包括ケア病棟

4病棟 49床
一部地域包括ケア病棟

3病棟 49床

~~東4病棟 休止~~

~~マタニティーセンター
休止~~

別館

感染症病棟 6床

平成25年度 266床

前年度入院患者数 216人/日

平成30年度 235床

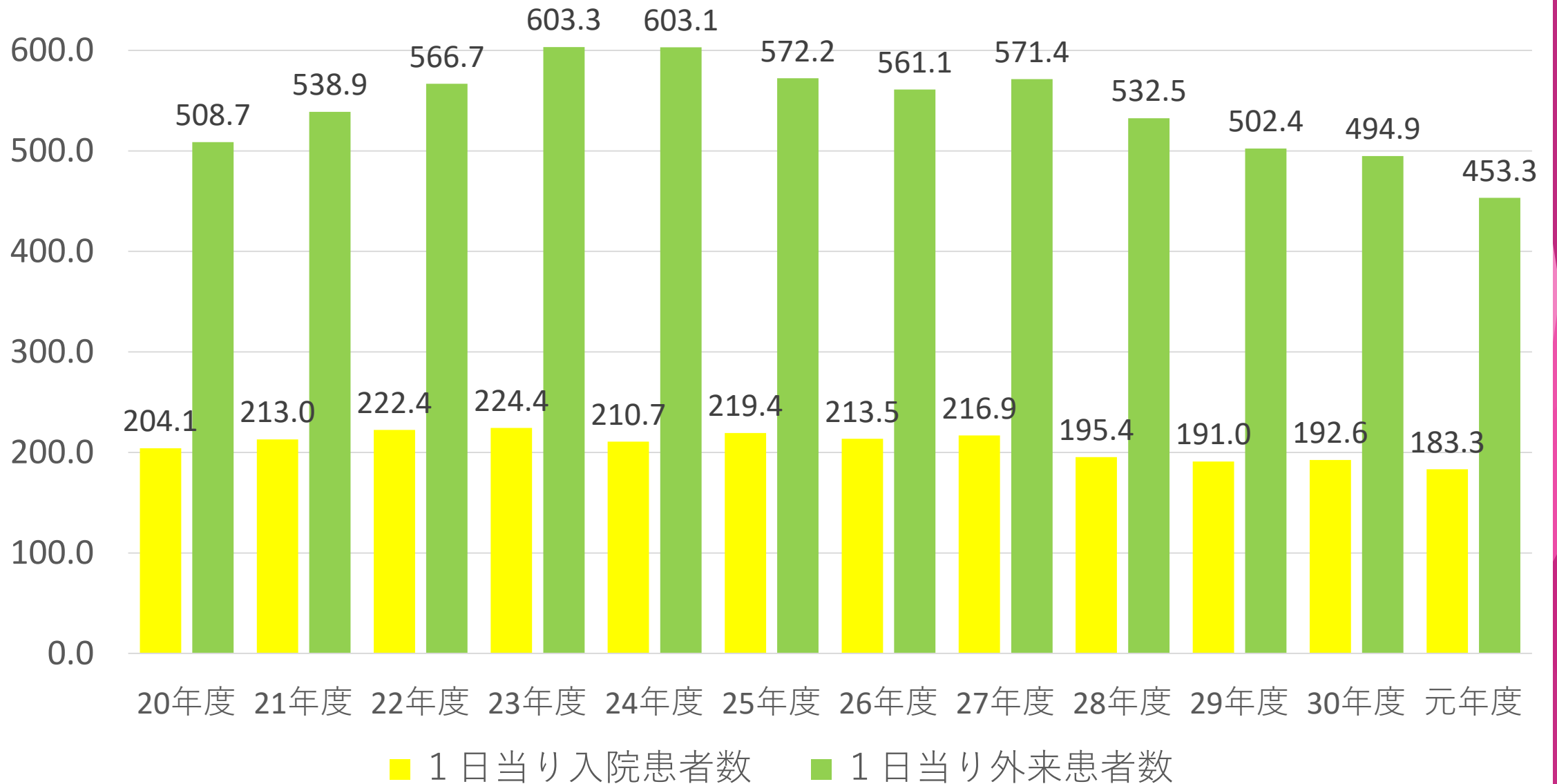
前年度入院患者数 191人/日

令和2年度 199床

前年度入院患者数 183人/日

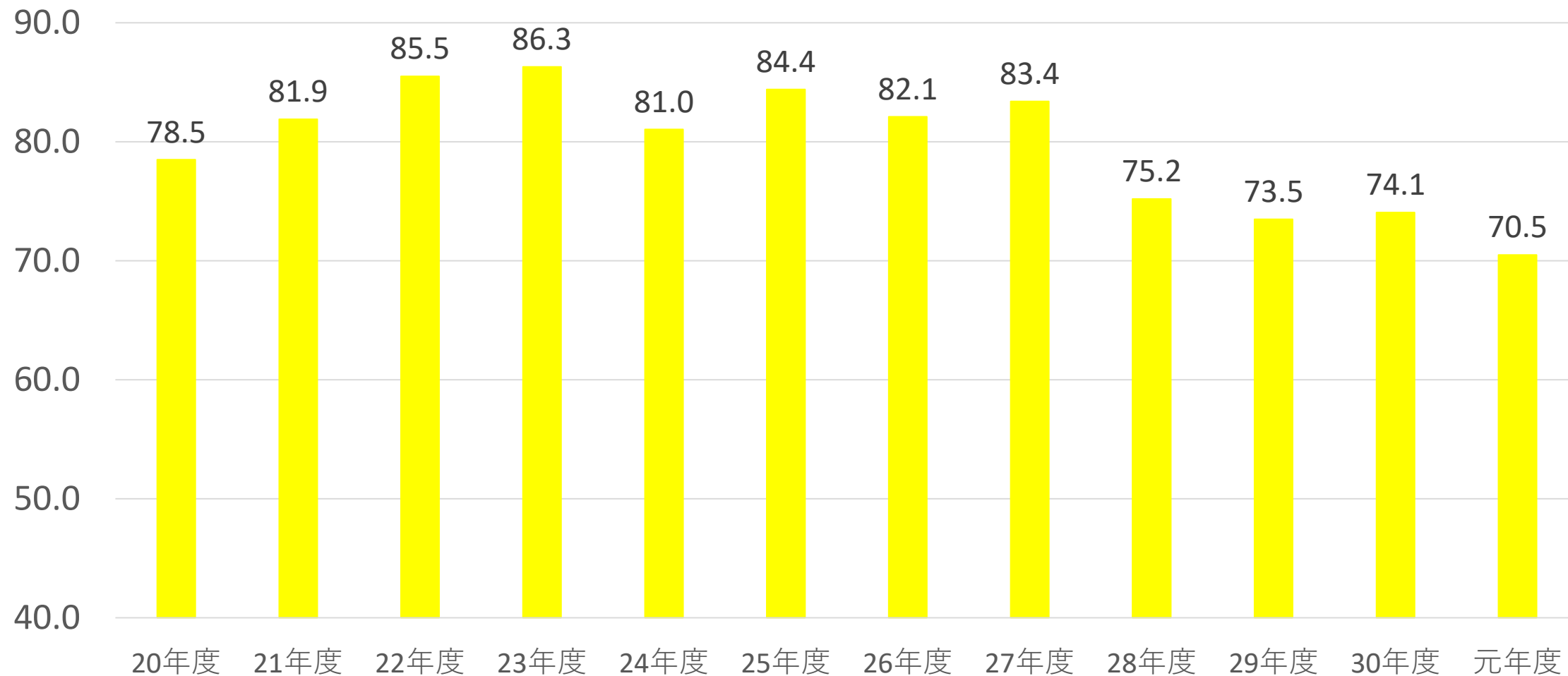
加西病院の現状について

①入院・外来患者数の状況



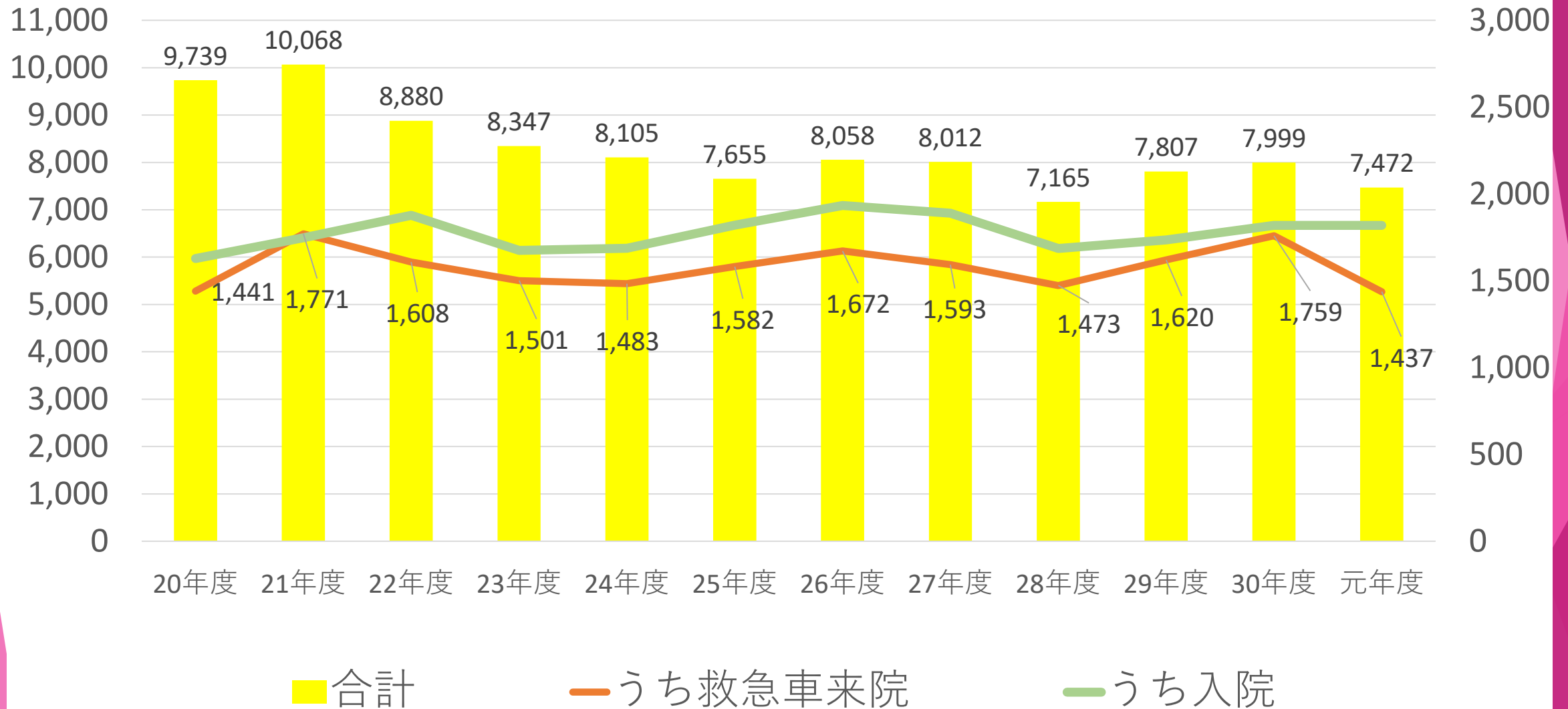
加西病院の現状について▶ ②病床利用率（％）の状況について

病床利用率（％）

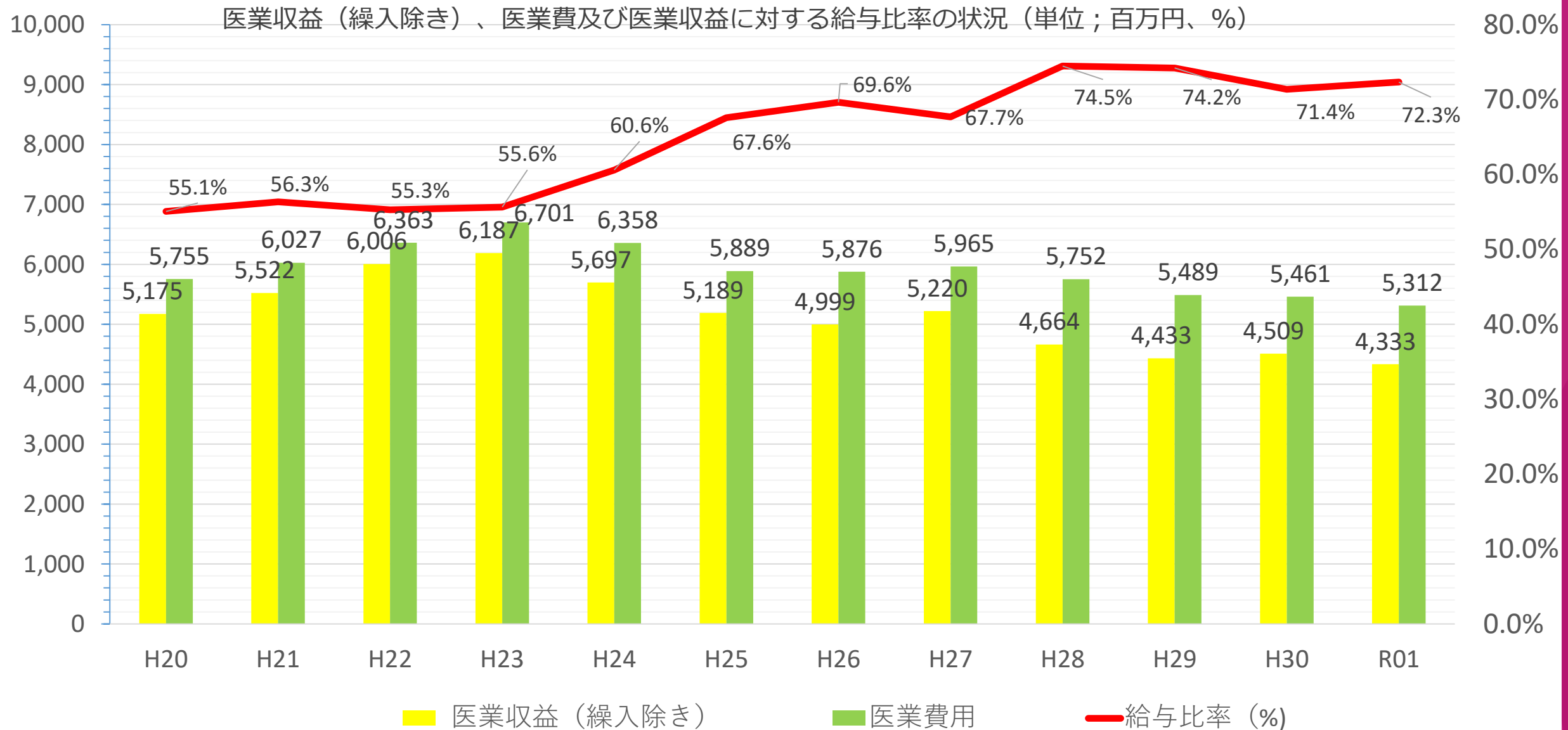


加西病院の現状について

▶ ③救急患者受入状況

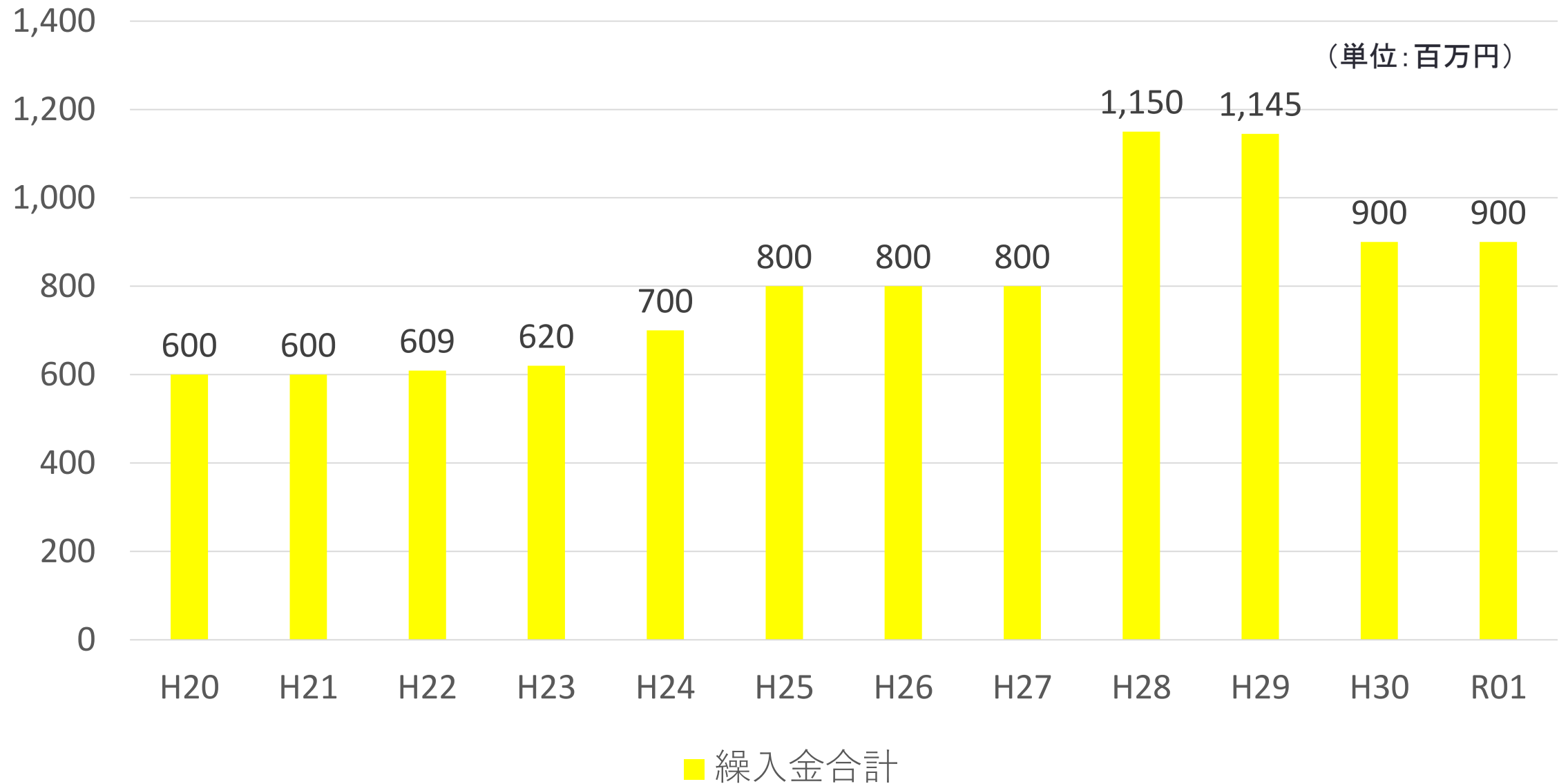


加西病院の現状について ▶ ④収益、費用、人件費比率の状況



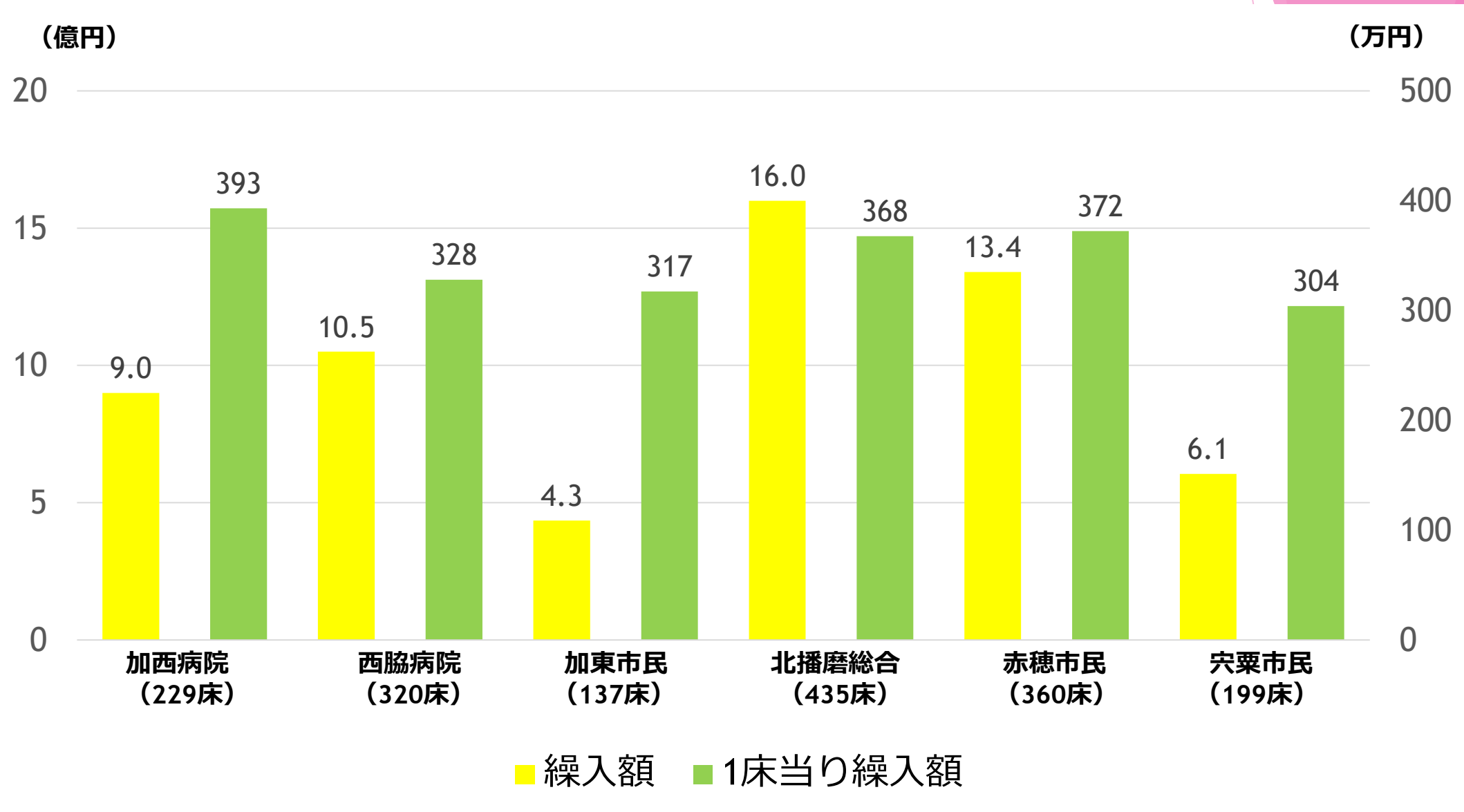
加西病院の現状について

⑤市からの繰入金の状況



加西病院の現状について

⑥近隣病院と比較した繰入金の状況（令和元年度）



加西病院の方向性について

▶ 加西病院将来構想意見書

【将来構想検討における基礎】

将来の人口は、2015年の約45,000人から2040年には約33,000人に減少
国保加入者のうち、加西病院を利用しているのは約22%。後期高齢者医療の方は約42%が加西病院を利用。

【基本的方向性（総論）】

高齢化が進展する加西の医療ニーズに対応するため、
現状の市立加西病院が有する急性期～回復期の入院機能は維持
病院の経営改善を進めると同時に、
近隣の医療機関との役割分担の明確化・地域医療連携を強化する。
また、近隣の情勢を鑑みながら、新病院の建て替え計画にも早急に着手する。

加西病院の方向性について

▶ 新病院建設基本計画策定委員会の検討

1. 機能分担の検討（何でも置いている百貨店から、必要とされるものをそろえる店に。）

①高度な医療は近隣大規模病院と連携。

広域での対応を必要とする周産期医療も大規模病院と連携

②加西病院は、一般急性期と回復期機能を担当。

（二次救急受入。近隣大規模病院からの高度・専門的治療後（ポストアキュート）のケアを担当）

③診療所との連携。

（詳細な検査や入院（サブアキュート）を行い、状態が安定すればかかりつけ診療所に逆紹介）

④地域包括ケア病棟を活用して、レスパイト入院の受入（介護疲れの患者さんを一時預かり）

⑤診療科は、将来人口・受診予測と大規模病院・診療所との連携強化により、

診療所や近隣大規模病院に任せる診療科の検討

加西病院の方向性について

2. 建設可能性の検討

- ①独自での経営安定化の推進。（収入に見合った経費で安定した経営へ）
- ②一定公的役割を担う部分についてのみ、市からの繰入金。
- ③経営の安定化により新病院の建設が可能に。

3. 建設規模・立地の検討

- ①将来の人口・受診予測を参考に検討。
- ②西館が十分活用できるため、既存の西館を活用。
- ③建設地については、西館を活用した現地建て替え。（用地費の問題も）
- ④新病院は136床の病室規模。
- ⑤建設当初は西館を活用して病床機能を一部残す。（21床）